

令和4年鴨川市 10大ニュース詳細

順位	出来事（月）	詳細
1	市内全小中学校で修学旅行を3年ぶりに実施（9～10月）	<p>市内の全ての小中学校で、修学旅行を3年ぶりに実施しました。</p> <p>この2年間は、市内・県内への目的地の変更や行程を日帰りにするなど、学校ごとに規模を縮小する対応をしてきました。</p> <p>令和4年は感染対策を徹底することで、県外を目的地とし、宿泊を伴うコロナ禍以前の形で実施することができ、子どもたちは仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができました。</p>
2	小湊さとうみ学校がオープン（2月）	<p>スポーツや文化を通じて、多世代間の交流や市民の健康の保持増進などを図るために設置された施設「小湊さとうみ学校」が2月1日にオープンしました。</p> <p>フットサルコートや体育館などを利用するスポーツ団体はもちろんのこと、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代の方がフリースペースの交流棟を利用し、多世代交流の場となっています。</p> <p>なお、令和5年4月1日からの宿泊事業開始に合わせ、指定管理者制度により、施設の管理・運営を民間団体が行うこととなります。</p>
3	選挙により市議会議員 18 人が決定（5月）	<p>5月22日に行われた選挙により、市民の代表として、新しい市議会議員18人が決まりました。選挙当日の有権者数は2万6,918人で、投票者数は1万6,253人、投票率は60.38%で、前回の63.67%より3.29ポイント下がりました。</p> <p>また、選挙後初の市議会定例会で、佐々木久之氏が議長に、川股盛二氏が副議長に選出されました。</p>
4	市独自に新型コロナ対策や物価高騰対策を実施（通年） キャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンや農林漁業・畜産業・商工業への各種支援金交付、子育て世帯への給付金支給など	<p>新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響を受けている皆さんを支援するため、国・県の交付金を活用して、キャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンや農林漁業・畜産業・商工業を対象とした支援金の交付、子育て世帯を対象とした給付金の支給など、さまざまな市独自の対策を実施しました。</p>

順位	出来事（月）	詳細
5	<p>「ゼロカーボンシティ」を宣言（8月）</p> <p>2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロに</p>	<p>地球温暖化は二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの増加が原因とされており、これを削減していく必要があります。</p> <p>市では、9月1日の一般廃棄物中継施設クリーンステーション鴨川の稼働開始を契機として、改めて地球温暖化対策に関する取り組みを推進し、2050年までに市内の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すこととし、8月30日にゼロカーボンシティを宣言しました。</p>
6	<p>一般廃棄物中継施設クリーンステーション鴨川が稼働開始（9月）</p>	<p>主基地区上小原の一般廃棄物中継施設クリーンステーション鴨川が9月1日から稼働を開始しました。</p> <p>市内で収集した燃やせるごみを大型コンテナに圧縮して積み替え、効率的に市外処理施設へ搬出します。</p> <p>また、資源ごみは種類ごとに、一時的に資源ごみ保管棟（ストックヤード）へ保管され、定期的にリサイクル業者が搬出します。</p>
7	<p>城西国際大学観光学部が東金キャンパスに移転、千葉県知事が跡地を視察（4月）</p>	<p>城西国際大学観光学部が4月1日、東金キャンパスに移転しました。</p> <p>安房キャンパスの施設などは、令和3年に市と大学が締結した「土地返還・施設保全のための基本協定」に基づき、現状有姿のまま保全されています。</p> <p>このような状況下、熊谷俊人県知事が4月18日、市内を訪れ、本市の課題となっている城西国際大学観光学部（安房キャンパス）の跡地を視察しました。</p> <p>長谷川市長と意見交換した熊谷知事は「城西国際大学安房キャンパスの跡地の活用は、市や安房地域、千葉県にとっても重要。今後も市と情報共有を密にしながら、どのような活用策があり得るのか、県の役割を果たしていきたい。」と話していました。</p>

順位	出来事（月）	詳細
8	大山千枚田と川代柿ノ木代棚田が農林水産省から「つなぐ棚田遺産」に認定（3月）	<p>農林水産省は、棚田の景観維持などで優れた取り組みを行う「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に 44 道府県の 271 地区を選定しました。これは、「日本の棚田百選」の認定から 20 年以上が経過したことから、令和版百選の位置付けとして新たな枠組みで行われたものです。</p> <p>千葉県内では、本市の大山千枚田と川代柿ノ木代棚田が選ばれました。</p>
9	郷土資料館が開館 40 周年（11 月） 記念展「資料館 40 年のあゆみ」を開催	<p>郷土資料館は、1982 年（昭和 57 年）11 月 1 日に開館して以来、古代から近現代に至る鴨川の歴史や文化に係る多くの資料を収集し、調査研究・展示・普及などさまざまな活動により、その成果を公表してきました。</p> <p>開館 40 周年を迎えるに当たり、記念展前期「資料館 40 年のあゆみ」を 8 月に開催し、里見氏の古文書、江戸時代の絵図、古写真、カメラ、軍服、鴨川の歴史や身の回りの道具に関するものなど、40 年で発見・収集されたさまざまな資料を展示しました。</p> <p>後期は令和 5 年 1 月に開催します。</p>
10	「強い鴨川づくりに向けた財政等適正化基本方針」を改定（10 月）	<p>市では、平成 30 年度に策定した「強い鴨川づくりに向けた財政等適正化基本方針」について、令和元年の大規模災害や感染症のまん延などによる社会経済情勢の変化、クリーンステーション鴨川の稼働によるごみ処理体制の変更などを踏まえ、改定しました。</p> <p>また、方針に基づく「第 2 期実施計画」も新たに決めました。</p> <p>改定に当たり行った財政推計によると、令和 5 年度から 9 年度までの 5 年間で、17 億 7,400 万円の歳入不足（歳出超過）が見込まれます。</p> <p>このような財政収支の赤字構造に陥ることのないよう、財政等適正化の目標を「令和 9 年度末において財政調整基金を 10 億円以上確保すること」と定め、歳入確保や歳出削減に向けた取り組みを進めます。</p>